

## 2011年 3R推進キャンペーン活動

ELV機構本部では、10月3日(月)、リ協と合同で、今年年中行事となった「3R推進キャンペーン」のピラ配りを、新橋駅前広場周辺で行いました。当日の参加者は、ELV機構の役員、リ協事務局並びに傘下団体の役職員など総勢約15名が、午後1時にELV機構事務局に集合、配布するピラとティッシュペーパーのセットを作成の後、全員で新橋駅に向かい、駅周辺で約1000枚のピラを通行人に配布しました。ピラの配布は決して容易ではなく、白のツナギに薄緑色のたすきをかけた我々メンバーに怖れをなしてか(?)目をそらしてよけて通る人もありましたが、約40分で予定の1000枚強を配り終えました。途中から、参加してくれた「リサイクル博士」(自動車リサイクル促進センター所属)には、道行く人たちも足を止め、手渡されたチラシを断る人はいない人気ぶり。大変お世話になりました。さて、この活動は既に5回目を数え、政府8省庁が共催で進める「3R推進キャンペーン」を支援する目的で、ELV機構、リ協共催でこれまで行って来ました。ピラ配りも決して楽ではなく、今回はチラシの作成、管轄の警察署(ELV機構の場合は愛宕署)の許可取得、当日はチラシにティッシュの包みをとめる作業を済ませていざ出陣となります。始めの10分程度は、遠慮がちであった参加者も、次第に慣れてくると積極さが増し、後半は通行人を追い詰めて手渡すずうずしさも。約40分で予定の千枚強を配り終え、機関車の前での記念撮影でお開き。

その後、一部有志はELV機構事務所でビールでのどを潤して恒例のキャンペーン活動は幕を閉じました。 □



チラシとティッシュのセット作成(上)を終えていざ出陣!(右)

目次:	
・2011年3R普及キャンペーン	1
・環境省からのお知らせ	1
・九州ブロック会議	2
・会員情報(エアバッグ輸出)	2
・RT部会報告	2
・スクラップ市場	3
・編集後記	3



栗山代表ピラ配り成功第一号(右)



博士とツーショット



配布完了、リサイクル博士と記念撮影)



リサイクル博士に足を止める通行人

## 《環境省からのお知らせ》

環境省は、自動車リサイクルの高度化促進のために、製造業者、解体業者、破砕業者など複数の自動車リサイクル関連事業者の連携による実証的な取り組みや、先進的な鉄リサイクルの潜在的な取り組みについて支援を行うこととしており、この度、支援対象となる事業を公募することを発表しました。これは、昨年1月に公表された「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」([http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=14949&hou\\_id=12047](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=14949&hou_id=12047) 参照)に指摘されている、自動車に使用されているレアメタルに着目したリサイ

クルの促進、材料リサイクルの促進等、自動車リサイクルの高度化を目指す取り組みの一環です。今回対象となる事業は大きく分けて①自動車リサイクル連携高度化事業 ②先進的金属リサイクル技術開発調査の二つの分野に関するもので、既に受け付けは開始されており締め切りは10月31日12時必着となっています。応募先、問い合わせ先は、環境省リサイクル推進室 高橋、豊住、高林の各氏(電話: 03.3581.3351 内線: 6823)ですが、お問い合わせ等に先立っては、以下URLにて情報を入手されますようお勧めします。 □

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=14274>

《編集・発行人》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報部会

〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル Tel: 03-3519-5181 Fax: 03-3597-5171

E-mail: jaera-office2@clock.ocn.ne.jp URL: <http://www.elv.or.jp/>

去る9月25日(日)、福岡市内において2011年度九州ブロック会議が開催されました。大分、鹿児島、熊本、佐賀、長崎、宮崎各県の地域団体並びに北九州市の各地域団体代表者が出席し、辻隆雄ブロック長の進行により会議が進められました。

会議冒頭、ご出席頂いた自再協柴田マネージャーより以下内容の挨拶がありました。

- 東日本大震災の影響はリサイクルシステム上のELV引き取り台数にも大きな影響があり、前年、前々年に比べ大幅に減少。
- 今後当分は政策的な支援策(例えば先のスクラップインセンティブなど)の導入は考えにくく、仕入れ競争の激化は必至と見ざるを得ない。
- ELV機構が実施してきた適正処理促進を目的とするインストラクター制度、あるいは全国講習会も、回数を重ねるごとにマンネリ化してきたとの話があるが、一方では、自再協のエアバッグ処理監査で不適正処理が報告される許可業者が少なからずあり、これまで悪質とみられる業者7社が契約解除処分とされた如く、適正処理の普及に繋がる全国講習会は、業界の姿勢を明確にする観点からも更に必要と考えるし、自再協は協力を惜しまない。

その後、最近のELV機構の上期活動状況並びに、震災対応、行政関連事項などを資料を用いて辻ブロック長と多田ELV機構事務局局長が用意した資料をもとに説明。

その後、各地域団体代表より、各地域の状況等につき報告がありましたが、主な内容以下の通り。

(大分) ELVの入荷は激減(30～80%減)。非鉄価格の下落により在庫の積み増しがある。域内の廃業、新規参入ともになし。

(鹿児島) 震災地におけるELV機構活動への参加について自治



体に報告したところ、災害対策の見直しと中であることから、参考になったと感謝された。ELV機構として今回の震災支援活動の報告書を作成し、活動内容

の周知を図るべきではないか。最近、会員1社が廃業した。  
(北九州) 入荷難に伴って、集荷範囲の拡大(150～200km圏に)を余議なくされている。  
(熊本) 他県からの集荷があり競争が激化している。  
(佐賀) 買い取り価格、人件費を考慮すると、手間をかけない方がプラスになるため、エンジン、ラジエター、コンデンサー、更には触媒さえ取り外さずに出荷するケースもある。  
(長崎) 在庫減は40～50%に達している。  
(宮崎) 入荷競争は相変わらず厳しく、特に中堅・大手業者間では熾烈である。

福岡県では、これまでELV機構社員団体であったCR福岡の機構脱退に伴い、機構の窓口がなくなった問題に関して辻ブロック長より機構直轄の支部設立等も視野に入れた対策を検討したい旨提案がありました承を得た。 17:00散会 □

## 《RT部会報告》

去る9月15日、今年度第二回のリサイクル技術部会(RT部会)が東京で開催されました。同部会は、ELV機構の活動の根幹事業ともいべきインストラクター研修会、全国地域講習会などを企画し、ブック長会と協力して運営する部会です。今回の部会は、震災の影響などで若干遅れ気味の研修プログラムを早急に企画立案し、実施に繋ぐための極めて重要な会議と地位置付けられ、通常の部会メンバーの他、協力頂くJARC、JARP、トヨタ自動車、タスコジャパン等も参加して開催されました。

吉川日男部会長代行は、本年度の基本方針として以下の項目他を上げています。

- 過去の実績から得た会員の意見、要望の精査と活用
- インストラクター研修会の更なる充実
- 全国講習会は、基本線をベースに、各団体毎の事情に合わせた柔軟な宇根いを行う
- 全国地域団体講習会は、従来通り非加盟企業の参加促進

また、今後検討していく項目としては以下が示されました。

- 地域講習会受講の実績(受講修了証書)が業許可更新の際有利に働くような方策
- 講習会修了実績が自再協監査の緩和に繋がる方策

なお、これらに対して自再協からは、今後さらに継続開催して実績を積むことが重要、また、講習会受講企業が監査時に指摘を受けるケースも散見され、適正処理の遵守を担保するレベルに至っていない等の指摘がありました。

その他、会員からの要望事項として、放射能被曝問題に関する知識の向上に資する内容、フロン、エアバッグ関連の講習内容のレベルアップ等も含まれています。

また、今後検討すべき問題として、如何に参加者の関心にマッチする魅力のある内容の講習会とするかが重要で、講習会の意義と得られる内容次第で、今後の事業継続が左右されることを参加者で共有しました。 □ (事務局)

## 《会員情報》

極東ロシアのイルクーツクを訪ねたELV機構会員からここに掲載する二枚の写真が送られてきました。

現地の中古部品商のヤードで撮影したもので、何れもエアバッグのユニットで上が運転席用、下が助手席用で、何れも日本から輸入したものであることでした。 ネットオークションには



相変わらず多数のエアバッグが出品されており、更に海外にもこのような形の輸出が行われています。 ELV機構においてもエアバッグ類の適正処理を呼び掛けている他、自再協においても業務監査の強化や不適切な処理に関する措置の強化を図って来ていますが、極めて違法性の高いこのような輸出が未だに続いているのは大変遺憾なことです。 ELV機構会員各位におかれては、再度適正処理の徹底をお願いします。 □



《10月8～12日の鉄スクラップ動向》

## 関東鉄源テnder、H2平均3万564円で落札 前月比で3,778円の値下がり

関東鉄源協同組合（理事長＝渡辺淳丸和商事社長）が12日に実施した鉄スクラップ共同輸出入札（テnder）の平均落札価格は前回比3,778円安の30,564円となった。落札数量は1万2500ト。船積期限は12月15日。

日本からの韓国および中国向けスクラップは現在、引き合いが少なく、価格がFOB32,000円でも成約に至らないなど、基調は弱い。このため「もし海外が買ってきても、相場を押し上げる要因にはならないのでは。国内を見ても、鋼材の販売が低調なことから高炉がスクラップを買わない状態となり、これも弱い要因だ」と渡辺理事長がコメントするなど、足元のスクラップ価格が値上がりする要因が見つからない状態だ。

## 東京製鉄、13日より全工場のスクラップ購入価格を1,000円値下げ（12日発表）

（速報）東京製鉄は12日、建値改定を発表し、全工場のスクラップ購入価格を13日より全工場で1,000円、それぞれ引き下げた。改定後の主な工場の特級価格は以下の通り。◇岡山＝陸・海ともに33,000円。◇九州＝陸・海ともに33,500円。◇宇都宮＝陸・32,500円◇田原＝陸・32,000円、海・32,500円。

## 関東地区 相場はさらに1,000円どころ下落 シッパーの引き合い弱く荷余り感

関東地区では、東京製鉄・宇都宮工場が1,000円の値下げを実施し、特級の購入価格を3万3500円とした。この動きに対応し、製鋼各社は

8日の週末から週明けにかけて、契約納入筋を除くほぼ全社が購入価格を500～1,000円値下げした。また輸出の新規契約、西送りとともに厳しいため商社・シッパーの引き合いが弱く、荷余り感が出ている。関東地区のH2の炉前実勢価格は31,000～33,000円中心、高値33,500～34,000円へと下落した。

## 東海地区 スクラップ炉前実勢価格は8日までに32,000～33,000円中心へ

名古屋電炉6社は、8日から500～1,000円がた値下げしている。下げ幅は大同特殊鋼、愛知製鋼、中部鋼鉄、共英製鋼名古屋の4社は1,000円、先行していたトピー工業、山口鋼業は500円。大同特殊鋼は17～21日に定期炉修を実施する予定。新断の大口消費先の炉休で、来週はさらに消費が落ち込み、業者間には納入先

（10月第2週（12日）の国内スクラップ炉前実勢価格）

		H2	気配
関東	北関東	31,000 ～ 33,000	値下がり
	南関東	31,000 ～ 33,000	値下がり
名古屋		32,000 ～ 33,500	値下がり
関西	大阪	33,000 ～ 33,500	値下がり
	姫路	33,000 ～ 33,500	値下がり

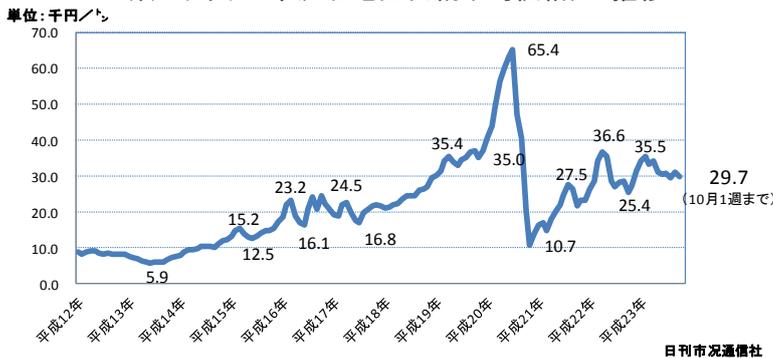
が一段と狭まることが予想される。H2の炉前実勢価格は32,000～33,000円中心、高値33,500円見当。

## 関西地区 大阪は下落基調続く、8日にも大半が値下げ、姫路も8日から500円下げ

大阪地区では、8日からも電炉の大勢が値下げを実施し、市況は下落基調が続いている。先月末から下落ピッチが早まっており、地区内でも直近ピークから3,000円がたの落ち込みを見せている。足元の大阪地区のH2の実勢価格は33,000～33,500円どころが目安。姫路地区の電炉4社は8日からも一部品種を除いて鉄スクラップ購入価格を500円引き下げた。姫路地区のH2の実勢価格は現在33,000～33,500円。

（※各地区の価格動向は10月12日午前時点のもの）

鉄スクラップ市況（5地区代納平均価格）の推移



《ご参考》去る8月23日に開催された、自動車リサイクルに関する産構審・中環審合同会議の公式議事録が以下からご覧頂けますのでご案内します。 [http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004358/029\\_giji.html](http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004358/029_giji.html)

## 《編集後記》

- ◇ 3R推進月間のキャンペーン活動への参加はすっかり恒例になった気がする。ELV機構役員、リ協並びに傘下の団体役員が多忙中を割いて駆けつけてくれ、好天にも恵まれた10月3日午後、新橋駅前広場付近で千枚強のチラシを配布した。例年に比べ、新橋駅前広場を行き来する人が心なしか少ないように感じた。震災、原発事故、不景気…等の複合的現象か。
- ◇ これまで3Rキャンペーンで使用するのチラシは、役所が作成したものを活用させて頂いてきたが、今年は、震災対応予

- 算などで在庫も逼迫しているためか、業界自前のチラシとなった。そんな訳か、新橋駅頭のチラシ配りには役所の関係者の姿がなかったのは、これまで政府と我々の相互協力のシンボリック催しであっただけに実にさびしい。だれが言ったのか、「カミ（チラシ）の切れ目が縁の切れ目」が耳に残る。
- ◇ 大物政治家に対する裁判が始まった。また過去から続く政治と金に関する流れかと思うとうんざりもする。今や国を挙げて大震災からの復興、市民生活の安全確保に政治が中心となって当たらなければならないのではないだろうか。（編集者）